

広がる過疎と寺院の展望

楠 淳證・葛野洋明・藤丸智雄・長岡岳澄・那須公昭・

遠山信証・赤井智顕〔編〕四六判・並製カバー・三七八頁・定価三、五二〇円（税込）

2026 年 9 月刊行



過疎化と人口減少で大きく変わる寺院の現状を見据え、地域連携、伝道実践、デジタル活用、災害支援、終活など全国各地の多彩な実践を紹介。研究者と現場の僧侶が、地域社会における寺院の新たな役割と未来への展望を示す。

【目次】

序章——『広がる過疎と寺院の展望』を読む人のために——

第一章 寺院が無くなるという現実

第一節 深刻さを増す寺院の現状と存続の方向性

第二節 不活動法人と寺院の解散・合併〔久司宗浩〕

第三節 伝統仏教教団が進めている過疎対策

第二章 過疎地のお寺とむきあう

第一節 ふるさと法要の実践

第二節 地域の人たちにとってのお寺

第三節 家族とふるさとを結ぶ寺院の役割〔中條曉仁〕

第四節 記録に眠る寺院の記憶——寺院の歩みを発掘し共有する——

第三章 過疎地での伝道を考える

第一節 寺院相互の連携による伝道力の教化

第二節 新しい法座の開催方法

第三節 人と場がつむいできたもの、そしてつむがれていくもの

コラム 寺院の教化団体のこれからのカタチ——出石のお寺の取組みから学ぶ——

第四章 新たな伝道手段を用いて

第一節 LINE公式を用いた門信徒との信頼関係の築き方

第二節 SNSを用いた伝道の力

コラム お寺という「場」の可能性——居心地のよい空間——

第五章 被災時のお寺の役割と地域活性化のための伝道活動

第一節 災害ボランティアと仏教——東日本大震災に学ぶ——

第二節 過疎被災地としての奥能登真宗寺院の復興活動——蓮如道中を奥能登へ——

【対談】

第六章 「終活」という営みから考える寺院の未来

第一節 仏教における臨終時の「看取り」と「心構え」

第二節 「遺品・生前整理」より繋がるお寺との縁

第三節 いのちのケアとお見送り——ある臨床宗教師との関わりを中心に——

第四節 お寺の終活と、とむらいのコミュニティを考える

第七章 地域の発展に寄与する伝道

第一節 地域社会との連携による伝道活動の活性化

第二節 世界各地地域に根ざす寺院活動とその根源

終章——多様な寺院活動を展開するために——

編集後記

執筆後記

■執筆者■

赤井智顕、秋田光彦、井上從昭、猪瀬優理、打本弘祐、宇仁菅真志、太田浩史、葛野洋明、木賣慈教、清岡隆文、久司宗浩、楠 淳證、坂原英見、杉山雲来、遠山信証、長岡岳澄、中條曉仁、那須公昭、西山良慶、藤丸智雄、松崎智海、若林唯人（50音順）

ご注文は FAX:075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

仏教・社会

注文書

(書店名)		様 冊	
ご担当		法藏館 三、五二〇円（税込）	
広がる過疎と寺院の展望		楠 淳證・葛野洋明ほか〔編〕	
ISBN978-4-8318-5767-5 C1015		ご注文先	
お電話		お名前	